

日本的报业理论与实践



[日本的报业理论与实践_下载链接1](#)

著者:[日]稻叶三千男

出版者:新华出版社

出版时间:1985-4

装帧:平装

isbn:

《日本的报业理论与实践》一书，涉及日本和世界主要国家的报纸发展简史、现状和新闻制度，新闻界与政府的关系、新闻与法律，升值报纸的采、写、编、售以及广告和技

术革新等等。特别是在本书中介绍了1970年代就在日本以及西方流行的一些新闻理论观点。如“知闻权利”、“情报公开”、“接近、利用（新闻媒介）权”、“反驳权”、“情报与意见的多元化”、“意见广告”、“新闻界的自我制约”等等。本书是为日本大学生编写的一本教科书，由稻叶三千男、新井直之主编，1977年由日本评论社出版。

作者介绍:

稲葉三千男（いなば みちお、1927年3月10日 - 2002年9月8日）は、日本の社会学者、ジャーナリズム研究者、政治家。研究者としては、東京大学新聞研究所（現在の東京大学大学院情報学環・学際情報学府の前身の一つ）で永く活躍し、東京大学定年退官後は、東京国際大学教授となった。1990年、革新系候補として東久留米市長に初当選、以降3期12年間市長を務めた（3期目は、健康上の理由から任期をわずかに残し、途中退任）。

新井 直之（あらい なおゆき、1929年 - 1999年5月13日）は、日本のジャーナリスト、ジャーナリズム研究者。岩手県出身。東京大学文学部独文科卒業。在学中に同大学新聞研究所の第1期研究生となった。1951年共同通信入社。社会部、文化部を経て文化部次長、科学部長、編集委員、調査部長を歴任し、1978年退社して創価大学文学部教授、1993年東京女子大学現代文化学部教授。日本ジャーナリスト会議設立時には共同支部幹事を務め、1973年から1979年まで同会議副議長。評論家の樋口恵子とは事実婚の関係にあった。

目录: 第一章：报纸概论

- 1、信息传递总过程中报纸的地位
- 2、世界报纸史略
- 3、日本报纸史略
- 4、新闻自由的历史

第二章：报纸的报道

- 1、新闻的定义
- 2、独家新闻
- 3、通讯社
- 4、记者俱乐部

第三章：对报纸的制约

- 1、自主制约
- 2、编辑权
- 3、政府和新闻媒介
- 4、新闻界与法律

第四章：报业体制上的若干问题

- 1、日本报纸与外国报纸制度上的差异
- 2、报纸的销售
- 3、报纸的广告
- 4、新闻记者

第五章：日本与世界的报纸

- 1、日本报纸概况
- 2、世界报纸概况

第六章：报纸与民众

- 1、宣传运动
- 2、意见广告
- 3、报纸与舆论
- 4、报纸和知闻权利
- 5、接近权

[日本的报业理论与实践_ 下载链接1](#)

标签

- 日本
- 新闻史
- 译本
- 新闻
- 商业/传媒

评论

言辞简练，表达清楚。懂行者的翻译比出版社名声更有性价比来得可靠。节选一句作者对日本记者的描述：“新闻记者的职业，本来是一种马拉松式的长距离比赛，但在日本，却成了以百米赛的速度飞跑，所以日本记者都在中途累得摔倒在地…”非深度处理、早晚兼发、事无巨细都让这个本该具有武士精神的职业有些变味。当然，按这本书的时间，这是1970年代的事了。

[日本的报业理论与实践_ 下载链接1](#)

书评

